

AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント

苗の準備

《育苗中のかん水》

緑化期以降は根の呼吸も活発になります。この時期のかん水が多いと、床土が過湿になり、根の呼吸が妨げられマット形状が不良になります。育苗初期は午前中に1回充分に行ってください。

・**夕刻のかん水は温度低下や夜間の呼吸を妨げるので避けましょう。**

・風で育苗箱の隅が乾きやすいため、板等で風よけを作るか、部分的にかん水しましょう。

・苗が大きくなった後期には1日1〜2回を目安に行います。

本田の準備

基肥は入水前に施用し、混和しておくことが重要です。また、代かきは、田植え2〜3日前を標準としますが、砂質土では1日前、重粘土では3〜4日前と、土質により考慮します。

《田植え前の省力防除》

後の防除の省力化のため、田植え前に箱施用剤を必ず散布しましょう。

【ワンカ対策】

発生数が増えてからの防除では増殖を抑える事は難しいため、長期的に効果が続く箱施用剤「フルスロツトル箱粒剤」を使用し、**発生初期から徹底的に抑え込みましょう。**

【ジャンボタニシ防除】

田植え直後から防除を行わないと、一晚でかなりの食害となります。移植後3週間頃まで注意が必要となるので、**水中の濁りが澄んでからスクミノンを10a当たり1〜4kg使用してください。**

・使用回数2回までです。

・散布後7日間は落水やかけ流しをしないでください。
・水口周辺や深水になる場所は被害が多いため、多めにまきまきしょう。



田植え前の準備

農業経営支援課 渡辺彰人